

第1回 事業所支援チーム実行委員会

日時 令和4年5月18日（水）

午後6時から

場所 4-2会議室

1 あいさつ

2 自己紹介

3 実行委員会の目的

平成31年1月に、福祉職がやりがいを持てる地域社会の形成のための施策を協議していただくため、市が福祉円卓会議へ諮問したことから始まります。

円卓会議では、1,500人を超える福祉従事者へのアンケートを行っていただき現場の状況を把握・分析し、それを基に具体的な支援施策と福祉条例の必要性を答申いただきました。

その後、令和3年1月から始まった福祉条例検討会議では、過密なスケジュールの中、共助と連携による地域共生社会の実現を基本理念とした「新城市福祉従事者がやりがいを持って働き続けることができるまちづくり条例」が令和3年9月の議会で可決されました。

福祉現場の課題や福祉従事者の思いがこめられた支援施策をそれぞれの立場でどのように進めていくのか、またその施策が福祉従事者にとって、さらには福祉従事者を支える地域にとってどのような効果が見られるのか、等々ご検証いただきながら、当初の目的でもあった、福祉に携わる人材の確保と福祉の仕事に対する社会的評価の向上を目指してまいります。

福祉条例実施施策スケジュールをご覧ください。福祉条例の実実施策は施策欄にありますように全部で20施策あります。

これらの施策を実行していくよう実行委員会を魅力発信チーム、連携推進チーム、事業所支援チームの3つのチームに分けて進めていきます。

皆様はこの事業所支援チームに該当します。

事業所支援チームの施策は全部で6つあります。このうち今年度予算化されずはじめて実施していくものが下から2番目の永年勤続表彰になります。

4 今後のスケジュール

(1) 令和5年度に実施したい事業について

6つの施策のうち令和4年度に実施する永年勤続表彰以外の5つの施策の中から令和5年度に実施したい事業を決め来年度の予算化に向けて準備を行う必要がある。

施策として、①就職祝金 ②福祉・介護の資格取得に対する助成 ③ICTネットワークや介護ロボット導入に対する助成 ④備品購入、施設改修に対する助成 ⑤認定福祉事業所

制度（仮称）がある。これは、福祉従事者約 1700 人にアンケートをとり約 1500 人からの回答から分析し施策を考えた。

【意見】

- ・福祉円卓会議の中でアンケートをもとに課題に対し取り組んでいくことで、福祉従事者が引き続き働き続けていけるのではないかという考えで選んだ。
- ・自分たちの働きに対し、対価することでモチベーションにつながる。資格を取る際に補助があると取りやすく、職員の資質向上にもつながる。
- ・事業所としては、コロナ禍で利用者が減り、現実経営が苦しい。補助金があってもいっばいいいっばいなどところがある。
- ・介護福祉免許取得代金を事業所が払った。助成があると助かる。
- ・お金とやりがいは切り離せないところが現実。
- ・経過と根拠がわからないと自分の考えを言えない。それぞれの事業所の環境やこうありたいという思いや疑問等も含め議論を深めていくのがよい。また、市民が拍手するような中身にするとよい。
- ・過去の経過を出していただきそれをみて考えや計画を練る。
- ・介護人材の募集をしたが現状なかなか集まらない。人材確保が重要な課題。
- ・お金が潤うことは魅力。
- ・福祉職を続ける、育てるをテーマに。そこをどうしていくか課題。

①就職祝金

- ・この事業をすることで、新城市や事業所の宣伝になり新規採用者を呼び込みやすい。人材が増え確保できれば、市民が安心して新城で過ごすことにつながる。市民が安心して過ごすためには、おこがましいが、福祉従事者あつてのことと考える。
- ・各職種若者の離職率が高い。なかなか3年続くことが難しい。福祉職のやりがいをもって続ける。その境界線が就職して3~5年が多い。3~5年の子の励みに繋がるようなものになるのもよいのでは。

③ICT ネットワークや介護ロボット導入に対する助成

- ・介護の仕事は、体力勝負。職員は腰痛持ちが多く、体の負担もある。体の負担、問題が離職につながることも多い。介護ロボットの導入があれば、職員の負担軽減はもちもんだが、利用者さんの負担も軽減できる。
- ・パワースーツの導入。自治体によっては市の助成があるとこともあるが、新城市はない。職員の介護の負担を軽減できる。軽減できると職員が60歳70歳になっても働き続けられるのではないかと。
- ・ICT ネットワークをとり入れたいが経営的に難しい。助成も継続していただくとありがたいし、負担も減る。
- ・国や県の助成のメニューがどういうものがあるのか勉強しないと形にならない。情報収集が大事である。

・ICTの助成はありがたい。高額なものが多い。助成があると機材を導入することができ、職員の負担の軽減につながる。

(2) 本年度実施事業について

- ・永年＝退職のイメージだが。。。。
- ・永年というよりは、永年働いていただけるような勤務の年齢の方を表彰するというのはどうか。(例えば5～10年勤務)
- ・実際、現場で要になっている職員を表彰するのが、職員のモチベーションにつながる。
- ・頂けることで、もう一年働くと今度は自分の番だ。と働くモチベーションにつながるとよい。
- ・表彰だが、賞状はいらない。現実、現金やQUOカードなどがうれしいのでは。
- ・保育士は保育士協会から勤続20年で表彰を受ける。(賞状のみ)
- ・50人を想定していたが、10～20人にするのはどうか。
- ・市長から直々に表彰されることが嬉しいのではないかと。そうすると10～15人に絞るのがよいのでは。
- ・新城福祉のオリジナルのものが記念品であってもよいのでは。
- ・いいじゃん券はどうか。いいじゃん券を使うことで地域の活性化にもつながるのでは。
- ・人材選考が難しい。流れとしては各事業所からの推薦→選考になる？
- ・推薦の要項があると推薦しやすい。その要項を決めるのが難しい。
- ・初年度はどの項目も取り掛かりなので難しく、見直しが必要になる。今後見直しステップアップしていけばよいのではないかと。